





## はじめに

2013年、「和食：日本人の伝統的な食文化」が、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。これは、「和食」が料理それだけではなく、「自然を尊ぶ」という日本人の精神に基づいた文化として、世界に広く認められたということ。

と同時に日本にとっては、人類共通の財産となった「和食」を、その母国として、長く将来にわたり保護・継承していくことが求められています。(以下、保護・継承の対象を「和食文化」として記載)

一方で、保護・継承の対象となる和食文化をどのようなものと考えらるべきでしょうか。生活文化である和食文化には明確な定義はなく、有識者から広く一般の方まで、それぞれの方々が自らの経験の中で和食文化について個々に解釈しているというのが実情です。

今後、和食文化の保護・継承に本格的に取り組むに当たり、国民各層の協力を得るには、和食文化についての国民の共通理解を深める必要があります。

そこで、農林水産省は、有識者による検討会を開催。さまざまな文献調査、アンケート調査、地域住民との意見交換、海外調査を実施して、検討を重ねてきました。

今回、こうした検討から得られた内容を当パンフレットにまとめました。

ユネスコ無形文化遺産に登録された和食文化。みんなで守り、未来へつなごう。

3P

注目を集める和食文化。

4P

存在感が薄れつつある和食文化。

5P

時代や環境に応じ変化・発展・進化してきた私たちの和食文化。

6P

守り、つないでいくべき和食文化には、何をどこまで含めるべきか？

7P

提言

11.10P

三世代+料理人、意見交換会での意見。

12P

海外ではどのように食文化を継承しているのか。

13P

和食文化を国民全体で継承するため、新たな活動が始まっています。

15P